



## 芦花中生徒と、関わる全ての人のウェルビーイングな未来のために

校長 風間 浩也

令和7年度の本校の教育のコンセプトは、「芦花中生徒と、関わる全ての人のウェルビーイングな未来のために」としています。これには、芦花中生はもちろん、保護者も、地域も、教職員も、ウェルビーイングの向上を目指す学校でありたいという願いを込めています。

今年度、朝礼や儀式の校長講話でおりに触れて、私から生徒に伝えていたのは、「20年後、30年後にも通用する力を身に付けてほしい」ということです。そのことも踏まえて、このコンセプトを掲げています。では、20年後、30年後にも通用する力とは何か、ということがとても大切です。我々親世代が必死になって身に付けていた知識偏重型の学力は、AIが伸長する世の中においては過去の物となってしまっています。様々なICT機器や教育機会が設けられている現在では、知識の習得だけを考えるならば、学校に登校する必要性はそれほど高くはないかもしれません。一方、最近では、データや点数では測れない「非認知能力」という言葉がよく使われています。非認知能力は、例えば、問題発見・課題解決能力、頑張ってやりきろうとする力、自己調整する力、人間関係形成力、豊かな人間性、SOSを出す力（セルフアドボカシー）など様々あります。それらの力を、ぜひ本校の授業だけでなく、学校生活や行事の取組などを通しても身に付けてほしいと思っています。

ここで、一つ、ご紹介したいことは、本校の学校評価アンケートにおける生徒のアンケートの項目「学校生活は、楽しい」という回答が、今年度、92.5%だったという点です。これは、嬉しい結果です。とにかく、「学校は楽しいところ」というメッセージを今後も発信し、教育活動の中で取組を続けていきたいと思っています。本校の昼休みでは、一緒に空間で過ごしている小学生に負けず、男女ともに校庭でよく遊ぶ姿を目にします。外遊びをしない生徒達も、教室や図書室で思い思いに好きな時間を過ごしています。学校を楽しんでくれている姿を日常的に目にすることができます。また、同アンケートで、「学校行事は、楽しい」と回答した肯定率も、95.8%。

「学校行事は、達成感がある」と回答した肯定率も93.6%となっており、行事における生徒の充実感は本校の誇れる部分だと感じています。令和7年度の本校のコンセプトには、「未来のウェルビーイング」と掲げていますが、もちろん、かけがえのない「中学校の3年間もウェルビーイング」でなければならないと思っています。

だからこそ、同アンケートにおいて、肯定的回答ではなかつた「7.5%の生徒」の想についても、注目しなければなりません。同時に、このアンケートには不登校の生徒の回答は、一部しか含まれていません。これも大きな課題です。「学校に行くと、楽しい」ということが基盤にあって、全ての生徒に、教科の学習はもちろん、それだけでなく、普段の学校生活や行事の取組などを通して、課題解決をする力や人間関係をよりよく形成の力などの「非認知能力」を育んでもらいたいのです。

7.5%の生徒と、アンケートに回答できなかった不登校の生徒も含め、さらに「楽しい」と思える学校にするために、「学ぶ楽しさのある授業」の一層の充実と共に、特に、次の2つのことを重視していきたいと考えています。

1つは、「自己肯定感、自己肯定力の向上」です。誰でも、自分に自信をもって、自分を愛せる環境でなければ、「楽しい」と思えません。ところが、思春期の中学生年代は、メタ認知の力が備わり、他者と自分を比較して、自分に自信をなくしたり、なげやりになったりすることがあります。己を知るということは、大切な成長のステップです。そのような時期に、子ども達の周囲にいる大人達（教職員・保護者・地域の方）は、他人との比較で出来ないことばかりを「引き算で評価」するのではなく、学校・家庭・地域において、子ども達自身が、自己をかけがえのない存在として捉えられるような「発達支持的」な関わりや環境を整えることが責務と考えています。

もう1つは、『『レジリエンス』の獲得』です。回復力などと訳されますが、子ども達には、「しなやかで折れないとバネのような心」を身に付けてほしいと思っています。このレジリエンスさえあれば、子ども達は未来の困難においても、折れずに立ち向かっていけます。そして、この力を最も身に付けられる環境が、学校という場にあるのです。学校は、授業だけでなく、あらゆる場面で人と関わり、そのたびに思うようにいかない場面が大なり、小なり目の前に現れてくるものです。友達や先生との関わり、行事や部活など、至る所にレジリエンスを鍛える場が訪れます。そのような環境の中で、子ども達は時に失敗をしながら、時には成功体験を積みながら、成長していきます。そこに学校、ひいては社会の「楽しさ」があると思います。教職員も、保護者も、地域の方々も、学校とは、そのような場であることを認識した上で、子ども達を時に励まし、時に支えていただけたら幸いです。